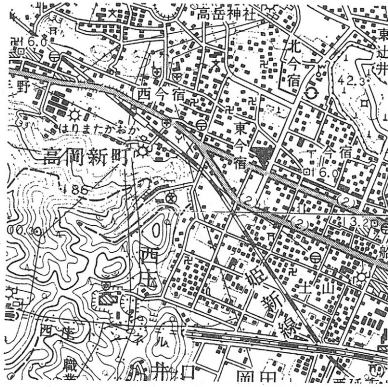


兵庫・今宿丁田遺跡
いましゆくちようだ



(龍野・姫路)

民間の店舗建設に伴う事前調査で、調査面積は約一五〇㎡である。調査区は、河道の一部にあたっていると

- 1 所在地 兵庫県姫路市今宿字丁田
- 2 調査期間 一九九〇年(平2)九月〜一〇月
- 3 発掘機関 姫路市教育委員会
- 4 調査担当者 秋枝 芳・大谷輝彦
- 5 遺跡の種類 集落跡・河道跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代中期〜平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
今宿丁田遺跡は、銅鐸の石製鑄型が出土したことで著名であり、姫路平野西部の沖積平野(標高一四〜一五m)に立地している。北方約一・二kmには、辻井廃寺跡(白鳳時代創建)、辻井遺跡(弥生時代〜平安時代)がある。

考えられ、南東に向かって徐々に落ち込むことから、河道の西端を検出した可能性が高い。河道内の堆積土は、下層より、暗褐色シルト層(弥生時代中期後半を中心とする)、淡い灰褐色シルト層(七世紀前半)、灰色シルト層(八世紀後半〜九世紀後半)、青灰色砂層(時期不明)、灰褐色土(二世紀後半)である。

木簡は、このうちの青灰色砂層中より出土した。同一層中からは播磨国分寺跡、同国分尼寺跡、本町遺跡等に類例がある毘沙門式の軒平瓦が、また、下層の灰色シルト層からも、本町式などの軒瓦が出土している。

8 木簡の积文・内容

(1) 年正活式為 〔九カ〕

(115) × 35 × 5 081

なお、木簡の积読に関しては、兵庫県立歴史博物館の諸氏のご教示を得た。

(大谷輝彦)

